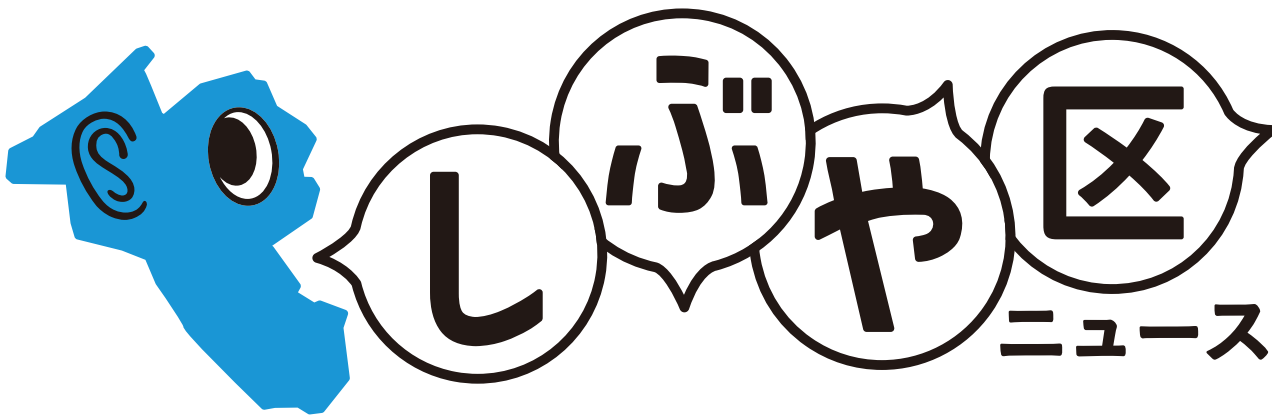


顔が見える。声が聞こえる。人をつなぐ。渋谷区からのお便りです。

令和2年
(2020年) 8月15日

No.1443



発行 | 渋谷区
編集 | 広報コミュニケーション課
所在地 | 〒150-8010 宇田川町1-1
電話 | 03-3463-1211 (代表)
HP | www.city.shibuya.tokyo.jp/
Twitter | @city_shibuya
Facebook | @shibuya.city
Instagram | @city_shibuya_official
LINE | @shibuyacity



JICA東京所長 田中泉さん

多様な力でつくる未来。
渋谷と世界をつなげる国際協力とは。

2	成熟した国際都市・渋谷を	4	10万円の特別定額給付金の	6	区内運動施設などの利用時における新型コロナウイルス	8	くらしの情報
3	目指すために必要なこと。	5	申請期限は今月25日(火)です ほか	7	感染症拡大防止の対策にご協力をお願いします ほか	11	

渋谷区基本構想が掲げる渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」

成熟した国際都市・渋谷を目指すために必要なこと。

渋谷のラジオで出張インタビュー 新型コロナウイルスの影響で国内外への移動が制限される中、国際協力はどう変わっていくのでしょうか？西原にあるJICA(独立行政法人国際協力機構)東京センターの所長・田中泉さんにお話を伺いました。



渋谷区は、多くの人が居場所を見つけることができる温かい街だと思います。

JICA東京所長 田中 泉さん

世界と日本をつなぐJICAの役割。

——JICAの組織概要とJICA東京(東京センター)の役割を教えてください。

田中：JICAは、日本のODA(政府開発援助)を担っている組織で、さまざまな活動をしています。まずは研修員の受け入れです。主に開発途上国・地域から日本に来て、いろいろなことを勉強してもらっています。たとえば、ごみのリサイクル、水道管の補修、農業、畜産などなど。その中には、大学院で長期に勉強している人もいます。逆に、世界へJICA海外協力隊やさまざまな領域の専門家を派遣し、現地での協力活動に従事していたりもします。また、物資の提供や、学校を建てたり道路をつくったり、資金を貸与して、飛行場や地下鉄の建設など大規模な事業にも協力しています。さらに、JICAがこれまで培ってきた世界中のネットワークを生かして、海外、特に開発途上国・地域で事業を計画している民間企業・NGO(非政府組織)の支援なども行なっています。たとえば、水を浄化する技術を持った会社と、まだ水道インフラが整っていない開発途上国・地域をマッチングさせる、といった例もありますね。JICAは昭和60年に西原に設立された東京センターを含め、北海道から沖縄県まで国内に15の拠点があります。JICAには年間約1万人の研修員が開発途上国・地域からやってきますが、そのうち約4,000人を東京センターで受け入れています。

——東京センターはどのような施設なのでしょう？また、どのような人が働いていますか？

田中：ここでは100人以上の人が働いています。仕事の内容は、研修員の受け入れや、東京センターが管轄する東京を含めた関東近辺地域のNGO、民間企業、自治体などとの連携事業が主です。研修員の宿泊施設を併設していますので、彼らの生活を支える食堂があり、医師も勤務しています。食堂は地域に開放していますので、一般の方もご利用いただけます。

——田中さんはどのような経緯でJICAで働くようになったのでしょうか？

田中：父がWHO(世界保健機関)で働く医師だったので、子どものころから父に付いて開発途上国を訪れ、自然と国際協力に興味を持つようになっていました。加えて、大学の時に社会学を勉強していたことです。私自身は渋谷区出身なのですが、日本国内のさまざまな地域で社会学のフィールド調査をする中で、日本は広くて、いろいろな人たちがいるのだな、という気付きがありました。そこからさらに視野を広げると、世界中にもいろいろな人たちがいて、それぞれの可能性を持っている。全ての人たちが自分の持っている力を最大限に発揮し、多様性が認められるような社会をつくることに貢献したいと考え、平成元年にJICAに入籍しました。

——この6月に東京センターの所長に着任されたと伺いました。

田中：東京センターは多くの地域を管轄していますので、いろいろな活動に携わることができ、非常にやりがいを感じています。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で、現在新しい研修員の来日が難しく、帰国するのを見送るだけという状況になってしまったので、それが寂しいですね。

世界中の人とつながることへの心理的ハードルが下がっている、今だからこそ。

——JICA海外協力隊の皆さんも一時帰国をせざるを得なくなり、大変だったそうですね。

田中：新年から、隊員を含めた5,000人以上の関係者が世界中から戻ってくるというオペレーションがありました。また研修員は研修が終われば自分たちの国に帰国するのですが、フライトが限られてきてそれが難しくなり、飛んでいる飛行機を探して帰国できるように手配しなければなりません。飛行機の運航状況も不確定でしたし、これまで誰もやったことがないことだったので、手探り状態で大変でした。今はだいぶ落ち着いてきました。

——これまで国際協力は、国をまたいで「移動」が前提にあったと思いますが…新型コロナウイルスの世界的流行の影響を受けて、変わっていく可能性はあるのでしょうか？

田中：このコロナ・ショックが、日本だけでなく世界中の人にとってまったく新しい「共通」の課題となっています。たとえば、学校、ビ

ジネス、医療をどうするかということは、今どの国も悩んでいること。世界中の人がお互いに得意なことを持ち寄り、いわゆる「新しい日常」を一緒に考えて解を導き出すということがとても重要になってきています。一緒に考えるという国際的なつながり、双方向での協働の意識の変革が大切です。そして、いろいろな人が気付いたことだと思うのですが、意外と遠隔でたくさんの方ができましたよね。世界の情報を得る、世界の人とつながることへの心理的なハードルは、コロナ・ショックで逆に下がったかもしれません。帰国したJICA海外協力隊の隊員も、オンラインでの技術のレクチャーなど、今できることをしているところです。

——渋谷区にいなから区民ができる国際協力もあるのでしょうか？

田中：機会はあると思います。今は世界中にたくさんの方のコミュニティがありますよね。たとえば、アニメ・漫画などが好きな人は国を問わずたくさんいるし、料理が好きなのは世界中のレシピをオンラインで見ることができます。それに、世界の人たちも日本のことを知りたいと思ってきています。まずは自分の興味・関心のある分野を入りに、世界とのつながりを持つと良いのではないのでしょうか。

「成熟した国際都市」を目指す上で必要なこと。

——渋谷区は、ロンドン、パリ、ニューヨークなどと並び称されるような「成熟した国際都市」を目指しています。田中さんは「成熟した国際都市」とはどのような街を指すと思いますか？

田中：国際都市と呼ばれる場所は世界中にたくさんあります。たとえば、私が昔勤務していたシリアの首都ダマスカスも古くから交易の要所と捉えられ、多くの人が集まる場所でした。それでは「成熟した」とはどんな場所かということ、共通しているのは、個性があって、独特な空気があるということですね。さまざまな人を受け入れる力、多様性を許容する街であるということも欠かせません。そして、自分たちの考えを発信し、外の人たちとつながっていく力も大事だと思います。

——渋谷区が「成熟した国際都市」となるためにはどうしたらいいと思いますか？

田中：十分いい街だと思っています(笑)。特に多様性の尊重という点では、すでに渋谷区は積極的に取り組みをしていますよね。それを渋谷らしく進めていかれたらと思います。私も渋谷での思い出がたくさんありますが、もともと懐が深く、いろいろな価値観の人たちが居場所を見つけることができる、温かい街だと思っています。この東京センターがある西原、その近辺の笹塚・幡ヶ谷・代々木上原エリアはとても静かで、世界中からたくさんの研修員を、住民の皆さんが自然と受け入れて、一緒に見守っていただけているという安心感があります。これまでに、代々木八幡のお祭りでは、町内会と協力して研修員が参加したり、近隣の小中学校に研修員を派遣して生徒と交流したりする機会もつくって

いただきました。このように地域との結び付きを持ちながら、渋谷区が成熟した国際都市になるためのお手伝いできればと思っています。

——最後に、区民の皆さんへメッセージをお願いします。

田中：コロナ禍で、皆さん一人一人がそれぞれ大変な時期を過ごされていると思います。日本中、そして世界中が力を合わせて、人のことを思いやりながら「つながる」ことでこの難局を乗り越えていくことができるのではないのでしょうか。JICA東京は引き続き、地域と世界の懸け橋として努力を続けます。区民の皆さんも、一緒に頑張っていきましょう。



母子の継続ケアについて学ぶ研修員たち (撮影：公益財団法人ジョイセフ)

JICAで学んだPCR検査の技術を▶ガナーで実践する元研修員

▲1年に1度行われる、西原小学校児童と研修員との国際交流会

田中泉さんプロフィール

昭和41年渋谷区生まれ。大学時代まで代々木上原で育つ。平成元年にJICAに入籍。シリア事務所、イラン事務所、パレスチナ事務所などを経て、令和2年6月よりJICA東京所長に就任。

田中泉さんへのインタビューは8月18・25日に「渋谷の星」で放送します。

問広報コミュニケーション課広報係 ☎3463-1287 📠5458-4920

渋谷区の番組を放送中です
ラジオ しぶや区ニュース (10分間) 月~木 11:00/16:00/21:50 「しぶや区ニュース」の情報を発信します。
渋谷の星 (45分間) 火 11:15 渋谷区で活躍する人たちが登場します。
渋谷のくらし (30分間) 火 16:20 地域の催しなどの様子を伝えます。
ラジオ しぶや区ニュース(区長の部屋ほか) (10分間) 金 11:00/17:00/19:50 長谷部区長が出演します(ラジオしぶや区ニュースの内部になる場合あり)。

「しぶや区ニュース」では毎月、「渋谷のラジオ」と連動したページを掲載。「しぶや区ニュース」と「渋谷のラジオ」が連携して、人と人のつながりが広がる紙面を届けています。

周波数: 87.6MHz FM ☆公式アプリでも聴取可能
所在地 | 渋谷3-22-11 サンクスプライムビル1階 TEL | 6712-6876
FAX | 5778-9620 E-MAIL | info@shiburadi.com HP | shiburadi.com/